

NO. 492

令和元年度
三田市人権ポスター入選作品



けやき台中学校 1年
まつおか 凛桜さん



令和元年度
三田市人権標語入選作品

人権さんだ

人権さんだは、みなさんに人権に関する気づきや情報などをお届けします。新たな発見や共感したことなどを含めてご意見、ご感想を人権推進課までお寄せください。問い合わせ＝福祉共生部共生社会推進室人権推進課 (559-5148 FAX562-1294 eメールアドレス jinken_u@city.sanda.lg.jp)

違いを認め合える多文化共生社会をめざして ～災害から考える～

現在、日本で暮らす在留外国人は、全国で283万人、兵庫県では11万人、三田市では約1200人です。(※1)災害が発生した時、被災した外国籍の人は、どのような困りごとがあるのでしょうか。
今号は、**阪神・淡路大震災**記念「人と防災未来センター」主任研究員の**楊梓さん**にお話を伺いました。



▲ 楊梓さん

こんなことで困っています
外国人の人が被災したら

暗黙の了解

避難所の非常食コーナーに「ご自由にお取りください」と書いてありました。暗黙の了解で、一つずつ持つていく人がほとんどですが、書いてあるとおりに大量に持つていくとすると人がいてトラブルになります。「避難所に来られない家族や友達の分も…」という気持ちからの行動でした。

↓「必要な分だけお取りください」や「一人一つずつお取りください」と明確に書いたり、担当者が直接配布したりする工夫をしましょう。

誤解
災害で「電車が不通になりました」とアナウンスされました。その情報の「不通」を「普通」と理解してしまい「電車が動かない」と伝わらず「普通」通常運転になった」という誤解が生じることがあります。

食べてはいけないもの

国によっては、宗教上の約束を重んじるため、避けなければならぬ食材があります。イスラム教では豚肉がそれにあたり、豚汁などは食べることができません。最近では、イスラム教で許された食材を使った「ハラール弁当」を支援団体が配布することがあります。

↓特別扱いではなく食文化の違いであることを他の人に知ってもらう必要があります。また、避難所での受付時に食べてはいけない食材を把握し、弁当などの配布時間や配布方法など工夫をしましょう。

勘違いからの通報

耐震建築の多い日本では、災害時に建物の中へ避難しますが、外国では屋外に避難し、テント生活となることもあります。公

↓普段から関係を持ち、対話を通して理解し合い、困ったことが大切です。

一枚の張り紙があるだけで

避難所で何日も話さない人がいました。その人は、話したら外国籍の人だと分かり追い出されると思っていました。また、言葉が通じていても不当な扱いを受けるのはという不安を持つてくる人もいます。



↓避難所に複数の言語で表示された張り紙をします。その張り紙があるだけで認められていると思いきや、コミュニケーションボードを準備しておくなど、環境整備も有効な方法です。

避難所での困りごとをお互いに理解し合い解決していくことは、少しでも不安感の解消につながります。言葉が通じない時は、留学生など言葉を理解できる人が一時的に翻訳として役割を担う



ことで互いの意思疎通を図ることができません。また、支援物資を運んだりするボランティア活動など、他の被災者と同じように、個性や能力を生かして活動することもできます。避難所では、外国籍の人と共に協力できることが多くあります。

地域の担い手として

私たちが直面する少子高齢社会において、外国籍の人への期待は、ますます高まっています。災害時に限らず、外国籍の人も、普段から地域の担い手として活躍する可能性が十分にありま。外国籍の人も同じ住民です。隣人として助け合う気持ちが一番です。文化や習慣などの違いを越えて、互いに理解し、共に生きる社会をつくっていきましよう。



編集後記

国籍にかかわらず人の命や暮らしを守る取り組みは、私たちに求められる身近な課題です。被災時の不安な気持ちは、誰もが感じるものですが、同じ国籍や宗教であっても、一人一人の考えや行動は違っています。また、私たちは、あふれる情報をとらえて、自分の中でイメージを作ってしまうがちです。お互いがひとりの人間として、違いを認め合い、対話を通して、日頃から交流を深めていくことが、多文化共生社会を築いていくひとつの手立てになると思います。